

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570500225		
法人名	医療法人相愛会		
事業所名	グループホームあつたか村	ユニット名	南館
所在地	宮崎県小林市大字北西方3251-2		
自己評価作成日	平成22年10月27日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570500225&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570500225&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御利用者、御家族、職員の交流の場としてソーメン流し、焼肉大会、敬老会、クリスマス会、外食などの年間行事を計画しています。中でも焼肉大会は御家族、近隣の方の参加も多数あり、楽しく過ごされております。又、晴天時は園庭の散歩もゆつくりとできます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの入り口には門扉も無く開放的で、広々とした庭園には随所にベンチや椅子が置かれ、小春日和の日には利用者と職員と一緒に散歩したり、いすに腰かけて外気浴を楽しみながらのんびりと談話をしている。利用者の誕生日には、利用者と職員手作りのケーキでお祝いしたり、また、昔なじみの正月の迎え方の一つとして、家族の協力を得ながら利用者に真新しい衣服を身につけて新年を祝ってもらうなど、利用者の笑顔を引き出す工夫を行っている。利用者や職員の表情が明るく、職員は心の通う寄り添うケアに努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取り入れ、家庭的な雰囲気の中で運動や外泊など行い、笑顔のある生活が出来るように理念をかかげている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、ホーム独自の理念を作り上げている。職員は、利用者との日々のかかわりの中で、理念がケアに生かされているかをミーティング時に話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	焼肉会、敬老会など地域の方の協力はあるが、日常的な地域の協力は少ない。	ホームの行事には、地域の方々の参加が得られており、ボランティアの受け入れや保育園児との交流はあるものの、ホーム自体が地域の一員としての日常的な交流の取組は消極的である。	利用者が地域社会とつながりながら暮らし続けられるよう、近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に更なる取組を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方の見学などを受け入れ、現状を知ってもらい理解を求めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議終了後、管理者間で内容を見直し、全体会議の場で報告を行っている。	会議ではホームからの報告とともに、参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見はサービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にグループホームの運営で困った時は、市町村の担当の方に相談したりして質の向上を図っている。	市担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、日ごろから利用者や職員と顔なじみである。ホームの相談事にも協力的にかかわってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、身体拘束の具体的な行動を全職員が正しく理解していない。	身体拘束の内容とそのへい害について管理者および職員は認識している。利用者の行動に目配り・気配りしながら安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者の状況に合わせ、現在のケアが虐待につながってないか全体会議の場で検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を2名の方が利用されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点などをお伺いし、納得頂いた上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談窓口を設けて、直接意見が聴ける雰囲気づくりを心がけている。相談等があった場合は、全体会議の場で話し合いを行うようにしている。		家族の来訪時や家族会では積極的に声かけし、何でも気軽に言ってもらえるよう雰囲気作りに留意している。出された意見や要望はミーティング時に話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う全体会議の場で意見を聞く場を設けて必要に応じて反映させている。		管理者は、職員とのコミュニケーション作りを中心に掛けており、ミーティング時には気軽に意見を出し合い、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、個々の職務遂行が出来るような時間等の条件とし、各自が向上心を持てるような環境となっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や他の研修等の案内を随時行い、参加を呼びかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やブロック別研修会に参加し、交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで本人や御家族と面会し、本人が困っていることや不安な事を聞き取り、安心して入居して頂けるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合は、家族の方と面談を行い、又、見学に来てもらい不安なく入居して頂くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、ケアマネとの面談の場を設けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むき、洗濯物たたみ、洗濯物干しなど、ご利用者の方と一緒にやっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な新聞の発送を行ったり、状況に応じて電話にて連絡を行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は自宅にある馴染みの物を多く持ち込んで頂き、住み慣れた環境が出来るよう声掛けを行っている。		利用者の昔なじみの場所に花見に出かけたり、ドライブに出かけるなど、できるだけ地域との接点を持ちながら生活できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前にソファを置き利用者同士が一緒に過ごせるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の方へ契約終了時に他事業所との連携を図っている事を説明し、連絡が図れるように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族より生活歴など聞き、出来る限り本人の意向や希望に添えるように努めている。		職員は家族や関係者からの情報を基に、利用者との日々のかかわりの中で声かけをして、言葉や表情などから利用者の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅等へ訪問し本人との面談を行い担当ケアマネや御家族より意見を頂き把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や排泄チェック、申し送りノートなど活用して一人ひとりの現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と御家族、スタッフの意見を取り入れ、又、定期的な評価も行いながら介護計画を作成している。		毎月モニタリングを行い、家族の意見や職員全員が意見、アイデアを出し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の実践状況を日々の介護記録に記入し、申し送り等を行い、見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて病院受診や外出など対応している。また、特老や老健、病院とも連携を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事にて地域の方のボランティア、散髪ボランティア、園児との交流を図り楽しむ事が出来るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診時は家族へ連絡後職員が同伴している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護師が勤務しており、日常的な健康管理を行い、かかりつけ医とも連携調整を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や医療機関との情報交換を行いながら、定期的な会議の中で状態等の確認を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医より助言を頂き、その都度御家族と話し合いを行い方針の共有をしている。		意思確認書を作成している。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り、随時話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡網を作成し、連絡体制を整えている。また、急変時の勉強会に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はとれてないが、近くの交番やコンビニへの訓練参加への協力をお願いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけを行っているが、時折トイレカーテンが閉まっていない場面があり、配慮が足りない。		職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保について認識している。利用者の誇りを損ねるような言動は見られなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が出来ることを見極め、本人の思いや希望が出来るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の訴えなどに耳を傾け、一人ひとりの自主性を尊重し、本人のペースにて過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着は出来るだけ本人に選んで頂き、髪染めなど本人の訴え時に行っている。また、本人希望の衣類購入なども支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、本人の嫌いな物は他のメニューにしている。また、食事前後のテーブル拭きなど、出来ることを声掛けにて行っている。	利用者の好みを取り入れた献立や食材の買い物、テーブルふきなど、利用者の力量に応じた場面作りを工夫している。職員は弁当を持参し、利用者が食事をしている間はサポートを行い、休憩時間に食事をとっている。	事業所の特性を踏まえて、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめる環境作りの前向きな検討を期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶ゼリーやジュース、お茶など、本人の飲まれる物を準備して、水分チェック表等で水分量が分かるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の出来る範囲で行ってもらい、必要に応じて声掛け見守り、一部介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ、布パンツなど日中と夜間の使い方やP-トイレ（ポータブルトイレ）設置などを行い、また、排泄チェック表にて排泄パターンなど把握し、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。昼間はトイレでの排泄を大切にしながら、個々に合わせた支援を行っている。紙パンツから布パンツに移行された方もおられる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、お茶ゼリーや水分調整、状況に応じ担当医に報告し、便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、シャワー浴や入浴の声掛けを行っているが、現場の都合により希望に沿えないこともある。	入浴曜日は取り決めていない。利用者に声かけしながら、本人が希望する日に入浴できるよう支援している。季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯、入浴剤などを利用して、利用者が楽しく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩や体操などを行い、夜間起きて来られた方にはお茶などを飲んで頂き、会話などの支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された場合は記録に残し、処方箋をカルテに入れ、全職員が理解出来るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する能力に応じて、出来ることを一緒に行いながら役割を取り入れ、決めながら支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯物干しやゴミ捨てなど、日常生活の中で声掛けを行っている。また、ご利用者の希望があれば、買い物に行けるように支援している。	利用者の気分や体調に合わせて、庭園での外気浴、近隣の散歩、買い物などできるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者の状況に合わせ、スーパーなど一緒に買い物に出かけられた時、御本人に所持して頂き見守りを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望時、いつでも利用出来るようになっており、必要に応じて取りついたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井から直接日光が当たらないようにすだれなどを設置して、フロア天井に加湿器設置、トイレには空気清浄機などを設置するなど工夫をしている。	居間兼食堂には通路を妨げない配置で壁際にベンチやいすが置かれ、テーブルには保育園児手作りの花瓶に季節の花が飾られている。利用者は思い思いに気心の合った方々同士の語らいがあり、安心してゆったりと過ごせる工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けゆつくりとくつろいで頂き、フロア内や玄関などにソファーや椅子などを置くなどの工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真やテレビ、仏壇などを持ち込んでおられる利用者もおられ、居心地よく過ごされるように工夫をしている。	日当たりの良いベランダには布団が干してある。家族の遺影や仏具が置かれ、命日にはお供えをする方や愛用のラジオで好きな歌謡曲を聞く方など、その人らしく過ごせる部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアやトイレ、浴室など手すりの設置を行い、台所や洗面所も入居者に合わせた高さとなっている。			